



NEW “K2キットバーティカルサイナスアプローチキット”

～ニュークレスタルアプローチでの低侵襲なサイナスリフトを実現させるインストゥルメントに新たに2種類が加わりより実用的に～

東京都 インプラントセンター21 三好デンタルクリニック 三好敬三

はじめに

サイナスリフトをより確実により低侵襲に、垂直的幅径増大の方法として普及したソケットリフト法は、開窓法に比較し外科的侵襲を押しさえるというメリットがあるが、反面マレットによる槌打は患者頭部に衝撃を与えるとともに、垂直的挙上高径の限界もある。より確実に、より低侵襲で簡便なサイナスリフトテクニックとして、K2 キットを使用したニュークレスタルアプローチテクニックが考案されて早 5 年。ニュークレスタルアプローチテクニックとは従来のラテラルからのアプローチを歯槽頂からアプローチするという低侵襲なサイナスリフトテクニックである。3 本のインストゥルメントであったものに、今回新たに2本が加わりさらに実用的、簡易的にクレスタルからのサイナスリフトアプローチが可能になった。本インストゥルメントを臨床応用したクレスタルからのサイナスリフトを行った症例をレポートしたいと思う。



NEW!

NEW!

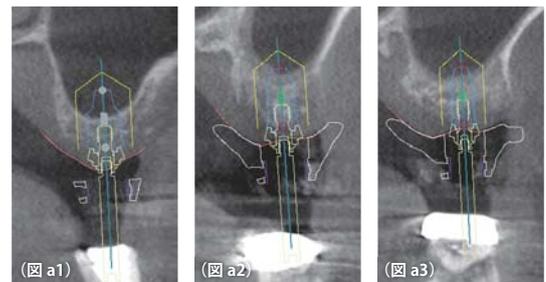
従来の K2 キットでは対応できる骨の垂直的距離は 1mm～2mm、最大で 3mm までだったが、骨が **5mm 以上** ある症例においても上顎洞粘膜の挙上が可能になった。

“K2 キット” ケースレポート

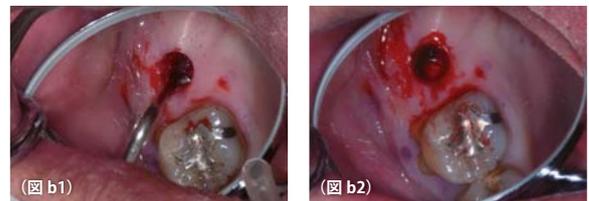
患者は 62 歳 男性で上手く噛む事ができず、特に 25, 26 は痛みが出ている事を主訴に来院された。

CT データによる診査・診断ではサイナスリフトが必要であり、また本症例においては最低限の侵襲でインプラント埋入を実現させるため、フラップレスにて治療計画を立てた。

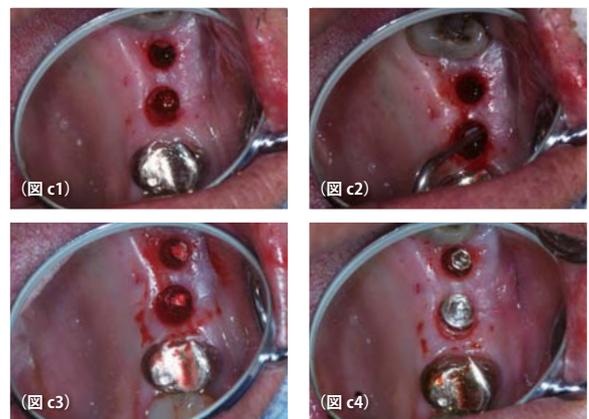
治療計画において 5mm の粘膜挙上が必要であると診断。本インストゥルメントを使用し、Guided Surgery にてフラップレスによるインプラント埋入を計画した。使用したインプラントは 17 に対しては WP6×8.5mm (図 a1)、25 に対しては WP5×8.5mm (図 a2)、26 に対しては RP4×8.5mm (図 a3) を使用した。



17 において、φ3.6mm まで形成したのち、K2 キットの #1 から #5 を使用し、上顎洞粘膜の挙上を行った。(図 b1)
骨補填材にて粘膜保護を行う。(図 b2)



25, 26 において、φ4.2mm まで形成 (図 c1) K2 サイナスインストゥルメント #1 で周囲の上顎洞粘膜を剥離してから #2 から #5 を用いてさらに慎重に上部へ骨面に沿って上顎洞底粘膜を剥離していく (図 c2)。上顎洞底粘膜に穿孔が無いことを確認してシュナイダーメンブレンにコラーゲンを添入しメンブレンを保護 (図 c3)。インプラントを埋入し手術終了となる (図 c4)。MI コンセプトに則ったニュークレスタルアプローチでのサイナスリフトが可能となった。



事前のコンピューターシミュレーション上で計画していた垂直的挙上は達成され、ベストなポジションでの初期固定を得ることができた。インプラントの形成窩から上顎洞挙上を行いインプラントを埋入するという低侵襲の上顎洞挙上術が可能となった。さらには、症例によってはフラップレスでも可能であるので患者のメリットは大きいと思われる。しかしながら、従来のラテラルウィンドウテクニックに比べ、難易度の高いテクニックであるため、術者にはしっかりとした術前の CT による診断と綿密な治療計画を持って活用してもらいたい。

